



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年4月1日

4月号・第159号

奈良・人と自然の会

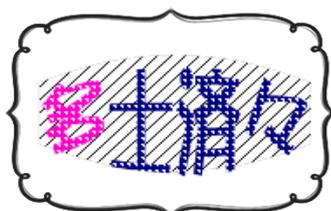
会長 藤田 秀 憲



## Contents

URL <http://www.naranature.com>

多土済々.....	①	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑬
Monthly Repo.ならやま.....	②	Galleryならやま.....	⑭
里山の今.....	③④⑤	ならやまプロジェクト.....	⑮
2月月例研修会.....	⑥	字遊字感.....	⑯
G Gプロジェクト.....	⑦	旬菜旬食.....	⑰
3月自然観察会・スタッフ募集.....	⑧	行事案内part1.....	⑰
「鳥」シリーズ.....	⑨	行事案内part2&仲間入りしました.....	⑱
やさしい病害虫講座.....	⑩	奈良学クイズ.....	⑱
青垣春秋.....	⑪	幹事会報告.....	⑲
俳句百景.....	⑫	お知らせ・申し合わせ・編集後記.....	⑲



ならやまに どっおり

萱野 勉 さん

顧問 阿部 和生



ハンチングがよくお似合い、そして少しシャイなところ〈失礼〉が魅力の萱野さんです。鈴木末リーダー共々

“ならやまエコファーム”を支えてくださる毎日です。「今日はお疲れさまでした…」で始められる終礼は、皆さまへの心温まる労いが込められ、優しい人柄がにじみ出ています。鈴木さんとは同窓生、何かとご縁があったのです。

同窓会で「ならやま景観整備」の活動の話が聞かれ、後日現地を訪れ 鋤を振るう鈴木さんと再会、放置されていた田畑が蘇る様子や、今も続けてくださっている「厩肥やチップの無償提供品」による、土質の改良などの実際を見られて感動「やってみよう！」と決意されたようです。もっともそれまでに、畑を借りられ菜園をなさっていて、農事体験を積んでおられる下地があったともお聞きました。“ならやま”の粘土質の土壌を改良しつつ面積を広げている現場での、鈴木さんとの再会などで心動かされ、放っておけないと参加してくださいました。その後のご尽力は「ならやまの美味しい野菜」に結実し、有機無農薬栽培も着実に成果と信頼を勝ち取っています。

「ど壺にはまりました」と笑顔ですが、お仕事と同じく「ならやま活動」を大切にされています、頭が下がります。雨での延期が多発したときなどは、翌日の臨時活動日にご参加、会社と話し合われて両立させておられると仄聞しました。また土日の空き

時間には、作物の生育状態を点検しに来られたり、時期を逸しないために作業に取り組みれたりなさっています。そうした日常の積み重ねがエコファームの成果をさらに充実したものにしています。

現在、活動日の参加者は、毎回60名前後と更に増加しつつあります。その大勢の参加者の皆さんが、お家への持ち帰り土産としての野菜需要は、増える一方です。毎回完売の好評は「会」への強力な資金源ともなっています。そうした事をにらみながら、P〈作付計画〉→D(栽培管理)→S(評価・改善点)を適宜すすめておられます。感謝！感謝！です。

一口如何ですか？何かの機会にお酒を勧めました「いやー あかんですよ、飲めないんです」病気されたの？「いやー身体が受け付けんの… でもタバコは好きよ」と続けました。てっきり私と同じ上戸とばかり決めつけていたのですもの残念。

この春は、写真のような「育苗ハウス」が作られています。旬の野菜を種から育て栽培する意欲的な試みです。ハウスの部材は、大部分周りの自然からの調達と工夫があります。



ハウスが完成し、益々「優れもの」の野菜が作られることでしょう。期待と楽しみが倍增する春です。お疲れの出ないようにと願っています。

Monthly Repo. **ならやま**

**2月27日(金) 臨時 曇り 42名**

前日の活動日が雨で、本日は臨時活動。非常に寒い一日であったが、翌日の「しいたけ菌打ち」イベントに向けて、テント設営、菌打ち、バームクーヘン作りの会場準備を進めた。いたずらカラスの活動が活発になってきたので、エンドウ、タナゴ池にネット架けで被害防止を図った。花壇では施肥、除草を実施。

**2月28日(土) イベント 晴れ 47名+94名**

ならやまベースキャンプで「しいたけ菌打ち」イベントを開催。キャンセルも1件だけで、大勢の子供達に参加し賑やかに楽しい一日を過ごした。スタッフの手際がよく、菌打ち、立木の伐採、薪割り、植樹、バームクーヘン作りなど混乱もなく体験してもらえた。父兄、子供からのアンケートでも好評で次回も来たいとの回答が得られた。

**3月5日(木) 活動 晴れ 65名+1名**

午前中は一斉作業でしいたけ菌打ち作業を行った。菌打ちを初めて体験した会員もいた。大勢の会員が押しかけたのでしいたけの種菌もさぞ驚いたことであろう。



ナス・ピーマンなどの苗を自家生産するための苗床ハウスが完成した。竹でしっかりとした骨組を作り、ビニールを張った立派なものとなった。次週には播種する予定だそうだ。春ジャガイモの

植え付けも行った。

第5地区のソバ畑南面の斜面に散乱していたスギ伐採木の整理を行った結果、斜面はすっきりときれいになった。また、南北通路脇の刈り取った笹、灌木の整理も実施。

水を抜いていたならやま池に水の導入注水を始めた。アヤメ類は枯れた葉を取り除き「もうすぐ春だよ」と新芽の目覚めを促した。



**3月12日(木) 活動 晴れ 58名**

次週の新人歓迎会の折に使う青竹を準備する。さらに4~5月に行うイベントに向けて自然工作の材料の準備も進む。家内工業そのものであった。いろいろな春~夏野菜の種まきを、小さな種を丁寧に播種箱にばらばらと。美味しいナスやピーマンの収穫を期待!

ならやまの台所の大幅な模様替えが行われ、賄いがやり易くなった。また、古いテント倉庫も新しいテントがかけられ、雨漏りもこれで大丈夫だろう。



(木村 裕)

## 里山グループだより

杉山耕二

皆さんもご承知のとおり日本の里山は、戦後の燃料革命以降50年以上放置されたままで、利便性や経済合理性の観点からみて、今後もこの状態は続くと思われま

す。当会が奈良県から受託する、ならやまの里山のうち「自然の森」は、観察路の敷設を除いて全く手が付けられていません。これは整備した森と放置した森を比較するためと、当会のマンパワーを考慮した結果の措置です。こういう手付かずの状態

で放置しておくことを凍結的保存と云うそうていえて妙です。一方「里山林」は、2007年以来の我々の活動で、枯損木や低層木の処理がなされ一見整備されたように見えますが、実は里山本来の植生の世代更新という根本の部分

は未だ殆ど手つかずの状態です。問題は、世代更新が遅れ大径木化したコナラなどの落葉広葉樹を放置すると、いずれ枯死しシイ・カシ等の常緑樹の森になってしまい、秋の紅葉も見られなくなります。

また、ナラ枯れを助長する一因ともなります。従って、整備を受託したなかで、せめて「里山林」だけでも根本的整備としての世代更新に繋げるため、コナラなど大径木の伐採を進めるのと並行して萌芽更新の促進や苗の植樹等も行いたいと考えています。

山の仕事、またその成果というものは、里の活動と違って、10年単位の時間経過を要するものです。緩やかな時間の流れのなかにおける里山の今の状況です。



## エコファームだより

鈴木末一

◆東大寺二月堂の1264回目のお水取りも終わり、大和路に本格的な春が訪れました。例年になく南岸低気圧が次々と通り過ぎ、北海道の東部で猛烈に発達し、その影響で寒気団が列島を幾度となく襲来しました。そのため天候不順で春作物の植え付け準備が滞りがちでしたが、3月中旬頃から急ピッチで作業を進めてきました。

◆先月号で紹介しましたように、本格的な「育苗ハウス」(W1.8m×D5.0m×H1.7m)(3月5日完成)作りにチャレンジしました。部材の竹や木材等は、廃材等を再利用し、文字通りエコと手作りに徹しました。

◆春作の果菜類(茄子・ピーマン・唐辛子・南瓜類等)と葉菜類(レタス)の育苗ポットへの播種作業は、3月12日に行い、ハウス内所狭しと並んでいます。穴あきの専用ビニールを被せて、二重トンネル方式にし、昼夜の温度差を少しでも軽減するようにしています。

◆昨年経験を活かし、種蒔きの手順等も頗る順調であり、今年より立派な苗づくりができるものと大いに期待しています。

◆3月下旬になり、幼苗の生長具合を見計らって一回り大きなポットに移植し、4月末には成苗になるように世話をしていかなければなりません。特に、立ち枯れやアブラムシ等の虫害に遭わないように、そして適度な灌水等、日々の管理が大切になります。



## ならやま花だより

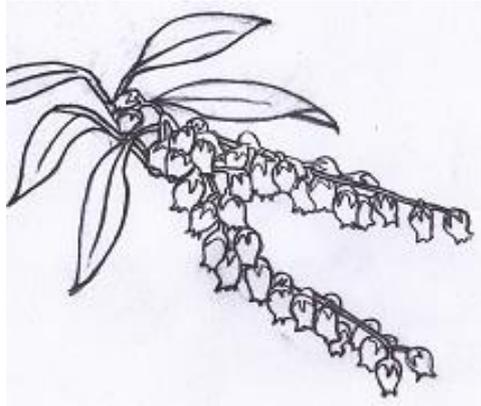
山中笙子

3月12日(木)ならやまでも冬から春へと季節が移りつつあります。一日の内でも、曇り空のすき間から時々陽が射し、その暖かさに春の気配を感じてホッとします。

この季節、私達の目を惹くのはアセビ(馬酔木)です。林の中で可愛らしい壺形の白い小さな花をびっしりとつけ咲いています。その見事なこと！嬉しくなります。

◆アセビ(ツツジ科)

- \*花は枝先につき葉は互生し、樹皮は捻じれる。
- \*アセボトキシンという呼吸中枢を麻痺させる毒を含み、鹿も食べないので奈良公園ではアセビが多く見られる。この有毒成分を利用して葉の煎汁から殺虫剤が作られている。
- \*花の可愛らしさから庭にも植えられる。最古の造園植物の一つで、万葉集にも万葉名「あしび」として詠まれており、「足しびれ」とか「悪し実」から「あし(せ)び」の名がついたらしい。



アセビ

【草花】オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、タネツケバナ、オランダミミナグサ、セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ、ナズナ、ハコベ、ヘビイチゴ、コオニタビラコ、ノゲシ、フキノトウ、ノボロギク、シハイスミレ

【木の花】ヤブツバキ、梅(白、紅)、ミツマタ、サンシュユ、サザンカ、クロモジ、ヒサカキ、アセビ、ヒイラギナンテン、コブシ(蕾)、ジンチョウゲ

【木の実】クチナシ、ヤツデ、ヤブコウジ、ツルアリドオン

【花壇】ナノハナ、スイセン、ムラサキハナナ



## ペタキン日記35

羽尻 嵩

2月19日(木)ならやま池の湿地横の歩道橋を川勝さんと5~6人で新しく作り直した。

まず土台が腐らないようにブロックを敷き、次にその上に板を支える2本の丸太を平行に置き、最後にその丸太の上に板を揃えて置いて釘で固定していくが、1日がかりの作業となった。



3月5日(木)ならやま池の排水口を塞ぎ池に水を張る作業をする。水の圧力で崩れていたならやま池の排水溝の周りを大量の土・土嚢で固める作業に時間をとられた。

3月12日(木)タナゴ池の横でやり残していた歩道橋作りをやる。例のごとく川勝さんの指導の下、2月の湿地の歩道橋作りの経験を踏まえて、作業にあたったのは2~3人だったが午前中に仕上げる事が出来た。



いつもなら冬場の池の整備作業では泥除去作業以外は軽作業が多いが、この冬はカルガモが子育てしやすい環境作り、子供たちが池で観察しやすくするための歩道の整備、木材・ブロック・砂の搬入など重労働が続いた。気が付くと春がそこまでやってきていた。

## ならやま虫だより

菊川年明

### ◆モンシロチョウ

4月のチョウで最もポピュラーなのはモンシロチョウであろう。このチョウは蛹で冬を越して春早くにチョウ（成虫）になる。このチョウの初見日は気象庁の生物季節観測の対象にもなっている。

ならやまでは、モンシロチョウは常時目につくチョウで、キャベツが成長する頃には、キャベツ畑に群がっている。多分雌のチョウが産卵のために集まっているのであろう。幼虫はアオムシとしてよく知られており、食草はアブラナ科の植物であるが、とりわけキャベツを好むようである。

アオムシの天敵にアオムシコマユバチという体長3mmほどの小バチがいる。この小バチはアオムシの体内に数十個の卵を産み付ける。その小バチの幼虫は約2週間でアオムシを食い尽くして出てきて蛹になる。アオムシは約半数がこの小バチにやられると言われているが、他の天敵にも食われ、チョウ（成虫）になれるのは親の数ほどではなかろうか。奈良時代頃の外来昆虫だと言われている。（モンシロチョウ）



### ミヤマホオジロ

彩りの森の東の端でオスのミヤマホオジロに出会いました。冬鳥ですが、ならやまでは大変珍しい野鳥です。頭と嘴の下は黄色です。



## パトロール班レポ

桜木晴代

3月12日に新2コースを回りました。山への入り口付近の畑一面がオオイヌノフグリの空色とホトケノ

ザの赤紫のツートンカラーです。これは私たち世代の早春の原風景に違いありません。思わず春の歌が口をついて出ます。今回は花だより担当の二人も同行しました。花や実の少ない時期に、山の中でひっそりと咲いている花や実を探すためです。みつけました、ヤブランやツルアリドオンが枯葉の下で今季最後と思われる宝石のような赤い実をつけていたのです。ヒサカキやクロモジが小さな小さな花を咲かせていました。ツルリンドウの新しい成育地も発見しました。

私は数回先輩諸氏と幾つかのコースを歩いたのですが、未だにどのコースを歩いているのかわかりません。しかし、パトロール班はコースを分かり易くする為の札やナンバー杭を打っています。又、山グループが開墾した観察路を、歩きやすい観察路にする為に、丸太の階段を作っています。そして、観察路の安全の為に落木や倒木の除去もしています。山の中の草や樹木の状況観察・同定なども行っています。人数が不足しているので協力をという誘いに実習生としてならと参加した次第です。参加して、初めてパトロール班の活動の目的が理解できました。

里山の活動に対する思いは一人一人異なり、夫々の作業に夫々の発見や魅力や、やり甲斐があると思われれます。時にはいつもと違う班で活動するのも良いのではないのでしょうか。そして、たまには山歩きで、平城山の樹木や花や昆虫・鳥などを観察してみるのもよいのでは。パトロール班に二人ずつ位同行するとか、ある日の午後を観察路を巡る日にするとかできないものかと思っています。やるべき作業が山積でそんな余裕は無いという声が聞こえてきそうですが、近い将来、少し余裕ができる日が来るのでしょうか。



## 2月・月例研修会 小田久美子 天香久山探鳥記&写真ギャラリー

2/23(月)、前日の雨に続く曇天の中 14 人の参加者がありました。いつも見られる筈の橋にもカモがいない、スターのカワセミもない。不安な気持ちで歩きはじめたらなんと早速ヒヨドリを追うオオタカが現れました。

その後も色々な鳥たちが現れて、ノスリも二度見られました。鳥合わせでは 37 種と皆さんの予想を超えた数を見ただけになりました。

今回は沢山の写真を送って頂きましたのでご披露します。勝田、辻本、寺田、弓場さん作品有難う御座いました。



【初めにコースの確認】



【左前方に香久山 (寺田)】



【ムクドリ (弓場)】



【マガモ ペア (弓場)】



【アオサギ (勝田)】



【ノスリの様です (辻本)】



【ハシビロガモ ペア (弓場)】



【カワウ (弓場)】



【昼食後全員集合 (寺田)】



【鳥合わせ (辻本)】

(鳥の目の虹彩が入っているのを良しとしますので、これからはその点ご注意ください。)

GGプロジェクト

「植えよう(クヌギ、しいたけ)！  
作ろう(バウムクーヘン)！」

2月28日(土)晴天の下、ならやまベースキャンプでGGイベントを行いました。参加者は過去最多の98人(子供51人、保護者・関係者47人)。これに対しスタッフも48人が参加しました。

今年は1月・2月に雨が多くイベントの準備等が遅れたうえに、直前になって参加者も増えてたりして、少し不安なスタートとなりました。

10時開会式の後で全員写真。参加者の多さにカメラマンも一苦勞。このイベントでは全体を3組に分け、各組を更に2班に分けることにしました。



午前中は3組とも里山林でシイタケ菌打ち作業等にかかりました。まず立木伐採・木槌製作作業と、ホダ木に穴をあける作業と、機械を使った薪割り作業を3組がローテーションして行い、更に菌打ち・ホダ木運搬作業を行いました。各所で賑やかな笑い声・歓声。山中を整列して移動する子供たちの姿。里山林が生き生きとした姿を見せていました。ベースキャンプへの帰りにシイタケ採りをしました。ホダ木に鈴なりの椎茸に大喜び。大量の収穫でした。



恒例のみそ汁を振舞っての昼食。ベースキャンプはお祭り会場のような賑わいでした。

午後は1組+1班が1グループになって2つの作業にかかりました。1つは初の試みで、里山林

でのクヌギの植樹です。予め穴を深く掘り埋戻した所をスコップで掘り返し、根切りした3年物のクヌギの苗を植えます。それに支柱を立て、子供たちがその場で記名したプレートを括り付ける作業でした。方々で自分の植えたクヌギの前で記念写真。親子で大いに楽しんでいる様子でした。



別のグループはベースキャンプでバウムクーヘン作り。3つの班が夫々2本の竹を使って顔を真っ赤にして奮闘。今回は保護者が積極的に参加しました。やはり冬の行事だなあ！ほくほくのバウムクーヘンを班毎に食べました。



最後に子供と保護者に別々のアンケート用紙を渡しました。“お土産付き”が分かると必死になって書き、回収率が共に9割以上！3時過ぎに閉会式を終えて、お土産のホダ木などを抱きかかえて帰途につかれました。スタッフの頑張りのお蔭で無事にイベントは終わり、アンケート結果も非常に好評でした。約100人のお客様を迎えるという初体験での課題は検討して以降のイベントに役立てたいと思います。

(森 英雄)

自然教室チームだより

私市植物園自然観察会 実施報告

3月11日(水)とても寒い一日でしたが、思いがけず17名という多数の方に参加していただき、自然観察会をしました。

お目当ての「春の妖精たち」はちょっと時期が早くてあまり見られませんでした。それでもキクザキイチゲ、ミスミソウ、オウレン、セントウソウなどが咲いていました。カタクリはまだツボミでした。

そこで重点を「冬をたくましく生きる植物たち」に移し、植物たちの工夫を観察しました。

その一つとしていろいろな冬芽、芽鱗痕、葉痕を間近にみました。その仕組みや残された不思議な形にびっくりしたり、感心したりしました。

またロゼットで冬を過ごす草たちをいくつか手に取って見ながら、これは何だろうと意見を言いあって観察をしました。

更に、寒い時期でも頑張っている草木の中から「ヒメサイカチ」「オオイヌノフグリ」「ホトケノ



ザ」のインプリ(説明・解説)を3人の方に担当していただき、その特徴がよく分かりました。

最後はネイチャーゲーム「森の色合わせ」です。与えられた色に会う自然物を見つけてくるゲームです。あまり見つからないだろうと予想された色の自然物も、皆さんのすごい観察力でいっぱい発見されました。自然界には本当にいろいろな色があるんだなというのが実感でした。

少々寒いのが難点でしたが、みんなが参加し、教えあうという楽しい観察会でした。(倉田 晃)

校庭の自然観察会で  
活動してみませんか!

「タンポポの笛が鳴ったよ!」「へえ〜木の葉っぱに匂いがあるんだ!」「この食べられるドングリ おいしかった!」子供たちの楽しそうな声が響く。「何で?」「どうして?」質問もいっぱい飛んでくる。



虫取り網を持ち、バッタやチョウ、トンボを求めて、校庭や近くの野原を走り回る。取った昆虫を最初はこわごわと触る。そのうちに平気で手をつかみ「おっちゃん こんなのを捕まえたよ!」と自慢する。いずれも校庭の自然観察会の風景である。

ご存じのとおり子供たちが自然に触れる機会は驚くほど減ってきた。そこで、自然と接触する楽しさ、自然遊びの楽しさを子供たちに伝える活動を、私たちシニア世代がもっとやってはどうかということで、小学校の校庭の自然観察会が始まった。子供たちがもっと自然の不思議や魅力に触れ、自然に親しんでほしい、自然が好きになってほしいとの願いを込めて始まった活動である。

私たちは何も難しいことを教えようとしているわけではない。子供たちと一緒に

①「見る」「さわる」「匂いをかぐ」「聞く」「味わう」という五感を使って、身近な自然に接する

②さまざまな自然遊びを体験する

③ちょっとした自然工作を楽しむ



という活動をしている。そして大切な事は私たち自身が活動を楽しんでいるということである。

自然教室チームの活動に賛同し、一緒に進めていっていただける方をお待ちしている。質問を含めて、スタッフに声をかけていただきたい。

(担当: 倉田 晃 辻本 信一 平岡 久美)

# 鳥シリーズ 小田久美子

## 4月 小鳥たちの生活

### 群れの中にも不平等

ホグスタッド・橘川・ザハビ氏の研究から

#### \*誰が優位\*

野外の鳥の群れではどんな個体が順位が高いのでしょうか。

まず大きい個体の方が力も強く、順位が高いだろうということは私たちでも容易に想像出来ます。

オーストラリアの研究者によると鳥たちの群れでは一般にメスよりオスの方が、若い個体より年とった個体の方が順位が高い傾向にあるようです。つまり父親>息子>母親>娘という順位が存在していたのです。

土地への定住性も重要です。

もともとその地域に留鳥として留まっているペアの方が越冬群よりも順位が高いこと、そして高順位個体の方が、春に良い繁殖なわばりを手に入れることが明らかになっています。

冬の間順位が各個体の生存率も高く、生き抜くのに大きく影響するようです。優位な個体は冬の間体重の減少が少なく生存率も高いのです。

順位は特に冬の群れではっきりあらわれます。それは冬が鳥たちにとって、厳しい生活条件季節であることと、そのすぐ後に春の繁殖期をひかえているからです。

冬の順位が春に良い繁殖なわばりを手にいれることが明らかになっています。

群れの中で高順位になるのは、繁殖期の初めに巣立った若鳥です。

一歳鳥は春に縄張りを持つのは難しいですが、冬の間若鳥の間で順位が出来ており、成鳥がいなくなった時に空いた縄張りを埋めるのは、最も順位の高い若鳥であることがわかっています。

しかし、\*上に立つのも楽じゃない・武士は食わねど高楊枝\*

繁殖するのは最優位のペアが優先で、採餌中に(例えばタカの襲われる)危険な場面があると、そのあとに直ぐ戻ってくるのは一番最下位の個体で、何故か優位の鳥はなかなか戻りません。

優位な鳥は劣位な鳥が安全なのを確かめてからでも、他の鳥を追い払って独り占め出来る自信があるからです。

そうして、劣位の鳥のペアは縄張りを持つことも、エサを取ることも後になる傾向があります。

では、優位な個体が有利なことばかりかという、特別に“しんどい”ことも多いのです。

それはヘルパーを持つ鳥で、他のメンバーが採食している間も、木の上で外敵を見張らなければならず、時には群れのメンバーにエサを振舞ってやらねばならないことがあります。

なんだか何処かの組の親分さんのようですね。他方若いオスが成鳥にエサを与えようとすれば、とたんに喧嘩がおきます。

劣位の鳥が優位の鳥におごろうとしても、優位の鳥は絶対に受け取らないようです。

プライドが邪魔して「食わねど高楊枝」。そんなこんなで優位の鳥はとりわけストレスも多いようです。

日本の企業では中間管理職のストレスが激増していると云われていますが、鳥の世界では中間管理職(?)の方が案外気楽なのかもしれませんね。



ハイムネメジロ ペア

野菜や花に発生する病気とは、どんな症状を呈するのでしょうか？

葉に斑点や斑紋が現れる、葉が萎れる、株全体が枯れる、茎や葉にカビが生える、果実が腐るなどが一般的な症状です。

農家では発生すると品質や収量にもろに影響するのでその防除は非常に重要です。とくにハウス栽培では多発しやすいので神経を尖らせています。一方、家庭菜園の主である園芸愛好家はどうか？ ほとんどの人は枯れた葉を取り除く、枯れた株は引っっこ抜く、腐った果実は千切って捨てていることと思います。皆さんもきっとそうだと思いますが、これが大正解です。しかし時々切り取った被害葉を畝の間に捨てている人を見かけますが、葉は萎れて枯れても後ほど菌はこっそりと逃げ出して新しい葉に取り付きますので切り取った被害葉や株は必ずポリ袋に入れて畑から連れだしてください。



病気が発生するには3つの要素が重なることが必要です。主人公である植物体、それを攻撃する細菌などの微生物、その微生物が取り付きやすい環境条件の3つです。いくら細菌がたくさんいても繁殖に不向きな条件下では病気は発生しません。

人に置き換えてみると、人間がいて、風邪ウイルスがいて、子どもや老人など抵抗力の弱い人がいて、これで初めて風邪引き患者が発生します。だから健康優良児ばかりでは風邪菌の付け込む隙はありませんし、夏のように気温が高い時期も菌にとっては嫌な時期です。

それゆえ、野菜や花を栽培する場合、菌は何処

にでもいるものと想定し、風通しをよくする、土壌の水はけをよくする、風雨の悪影響を少なくするなど栽培環境面の工夫が有効です。

害虫防除では、害虫の姿を見てから殺虫剤を散布しますが、病気の場合は、発生する直前、または発生直後の初期防除が基本です。病気が多発してからの防除は非常に難しいです。不可能と言ってもよいくらいです。火事と同じように初期消火が基本です。

葉に斑点や斑紋が発生しはじめたとき、白いカビがぼつぼつと見え始めた時が初期防除の適期で、ダイセン、ダコニール、オーソサイドなどの予防薬を散布します。少し症状が目立つときは治療効果のあるベンレートなどを散布します。被害症状がかなり目立つようになっているときは「時すでに遅し」ですが、被害症状の激しい葉を取り除いた後に治療効果のある薬剤を散布すればなんとか。

なお、薬剤の効果があつて、取り付いている菌が死んでも被害症状は消えません。薬剤の効果があつたかどうかの判定は新しい葉に新たな症状が発生するかどうかです。

白いカビがいっぱい発生するうどんこ病については、うどんこ病専用の薬剤を散布すれば効果抜群で、新たに伸び出す葉には被害症状が表れません。



株全体が萎れて枯れるのは土壌病害といって非常に恐ろしい病気です。そこでは菌が残っていて翌年も発生しますので、栽培する畑を代えるのは予防対策の一つにもなります。



# 隠れ古社寺 ひとり旅 ⑮

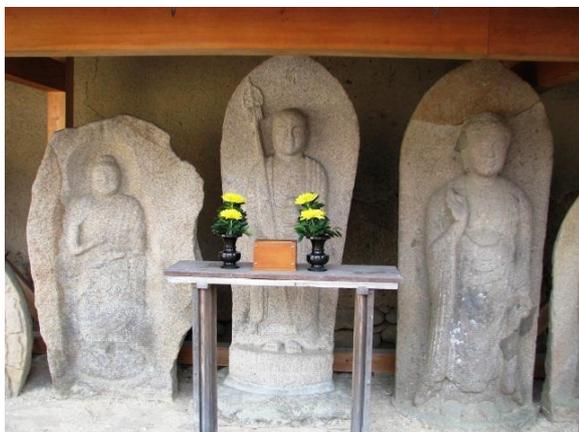
歴史文化クラブ  
川井秀夫

## おもしろ地藏さん 見て歩き II

前回に引き読み、地藏さんを追っかけて見た。

### 紙張り地藏

3月6日。比較的穏やかな天気恵まれ何年振りに改装成った新薬師寺を訪れる。目的は有名な十二神将ではなく「紙張り地藏」さん。門前のおヤジは何処にあるか知らないと言う。住職に繋いで貰い、直接ご案内戴く。門内に入りすぐ西側にずらりと仏像が並ぶ。中央に紙張り地藏尊、右手に阿弥陀さん、左に小動物を刻した四王仏、何れも風化が進む。



紙張り地藏(室町期)は瘡(くさ)地藏とも言われ湿疹や腫れものに効験があり、患部に白紙を張り、治癒すれば涎掛けを奉納すると言う。

住職が子供の頃、子供の瘡が流行り、皮膚のただれた子を連れた母親がお参りに来てベタベタと紙を張っていたそう。今でも時折そんな姿をみかけるとおっしゃる。見たところ紙は見当たらず、股の部分に剥がした痕跡があり、赤ちゃんのオムツかぶれだろうか。

一諸に患うと言え、鐘楼横の池に泳ぐ亀や鯉は片目が無いと言う伝承がある。眼病平癒の本尊 薬師如来が人間から亀や鯉に眼病を移してくれると言う。

この寺には他に「夜泣き地藏」「影清地藏」があ

るが秘仏のため拝観出来なかったが、事前に連絡あれば住職が案内するとの事。後日を約し失礼する。

### 腰直し地藏

バス便が少なく日を変えて訪れる。13日は絶好の日和、近鉄・奈良から広岡行13:41分のバスに乗り、柳生街道を途中で分岐、笠置方面へ。綾吾谷駅下車。この辺り南の庄町と言う。丘陵の空間には段々畑、広々とした田園風景、人影も無く県道を走る車の音だけが耳に触る。県道沿いに坂道を下ると、瓦葺のお堂、屋根が無ければ祠の佇まいに見える。右に1米ほどの地藏さん、左に6字の名号を印した石文が坐す。



伝説によると腰痛で伏せていたお年寄りの夢枕に「土の中に埋まっているが、掘り起こして祀れば腰の痛みは治る」と、お告げがあり以来村人の信仰篤く守り続けている。

お堂の回りには奉納された手作りの木槌が大小120余並び、地元では「つちのこ」と呼び、この木槌を借りて痛い部分を叩くとピタリと痛みが止むと言う。この地では正月に木槌を引き回し、不幸を木槌に封じる風習がある。

余談になるが、お堂の瓦屋根の高さが170センチ程、拝礼の際上げ下げで、瓦に強かに頭をぶつける。

「痛っ!」「お地藏さん痛みは治るかね」  
「ばか!俺は腰直しだけだ」ごもっとも。

きゆうかうつ

久闊を叙して貌出す落の臺

八木順一

「落の臺」は春の使者。久闊を叙すは「無沙汰を詫びるとの意。植物は季節の輪廻に敏感。人間様に詫びなくても。存問俳句の佳句。

春の夜に布団一枚落しけり

八木順一

暖かくなると、無意識に重い布団を蹴飛ばしている事が良くある拾い上げて春眠暁を覚えずと行きますか。俳句は一級品。

らくろう

楽浪の陶片秘める春の土

古川祐司

「楽浪」は前漢の武帝の頃の地名。今の平壤付近。楽浪文化の地。作者の歴史観は素晴らしい。歴史俳句の名作品。

日脚伸ぶ傘寿五体の瑕疵のなき

古川祐司

先般、心臓外科へ検査入院。杞憂に終わりでめでたし、めでたし。また、年を忘れてゴーイング マイウェイですか。

首筋のこれは春風土香る

西谷範子

花畑のお世話に大童。吹き抜ける風に春を感じる感性の一句。女性らしい繊細さ、男性には真似が出来ない春ならではの逸品。

野辺や春土ふうわりともぐら塚

西谷範子

時に土のもっこりした盛り上がりを見る事がある。地下の生物も活動期。そうだ今日は啓蟄だよ。軽妙な観察眼に脱帽。

春雨上る微睡む里に鳧の声

羽尻 嵩

里山での一景。雨宿りして一瞬の眠り、ケリの鳴き声に目覚め。ジリさん、雨は止んだよ。さあ、仕事、仕事。



俳句百景

監修 川井秀夫

うらうらと予定無き日の朝寝かな 青木幸子

時間に追われない日の朝寝は最高。「朝寝」は春の季語。作者は生活実感のさりげない句が巧い。春眠こそ至福の時。

野性とは懐かぬものよ雀の子

青木幸子

「雀の子」は春の季語。スズメ目の小鳥は多種。今日も青木家のレストは盛況。主の心鳥知らず。食べた後は食い逃げ、まあいいか。

植菌や槌の音乾く春隣

坂東久平

椎茸の菌打ちが始まる。コンコンと林間にこだまする。乾いた音に待春の思いが募る。パソコンの様に叩けますかね。失礼。

水仙の一茎凜と母眠る

坂東久平

故郷の水仙寺の一句。在りし日の母の姿を水仙に見立て、追想の一句。お墓参りの情景がスーと入り佳句。なかなかやりますね。

法力の火屑拾ひしお水取り

鈴木末一

今年も作者の肝煎りで、内陣での鑑賞会。修二会の句も多いが。法力の火屑が引き立たせる。難題に挑戦された意欲を買いたい。

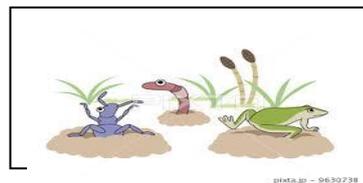
百福の恃む一粒種袋

川井秀夫

先日、実生の苗床完成。夏野菜の種蒔き。成木までの育成が始まる。ポットに一粒一粒心を込めて。善行を重ねれば、百福をもたらす

癒しの散歩道

春の渦潮



谷川 萬太郎

- (1) そんなに強く踏まないでおくれ痛いから つくしの坊やが靴の底で泣きべそをかく  
 土の中からもっこりと小さな頭を擡げて 殻からはい出たばかりの虫達が顔を出す  
 暖かな春風に乗ってやって来た雲雀に 目覚めたばかりの田畑や山里がごあいさつ  
 眠気気味の山はやっとこだまに起こされ 古い衣を脱ぎ捨て春の衣装の支度に慌し
- (2) 拡がる空は春の準備の掃除に余念がなく 薄汚れた雲の壁を除き青色に塗り替える  
 遠く海原は春のうねり穏やかに寄せては返す 柔らかな日差し星の光ふり注ぐ波打ち際  
 長旅の疲れも見せず春の箱舟がゆっくりと 川辺に辿りつき陽炎揺らぐ水面に花影映す  
 新しき故郷の景色は走馬灯のように巡りて 喜び溢れる胸のときめきと清らかな瞳微笑む

ならやま茶論

「弾丸ライナー」

竹本 雅昭

旦那： おい早よせんかいな。飛んでってしま  
うぞ。  
 双眼鏡： 慌てなさんな。焦ったらかえって照  
準が合いまへんやろ。  
 旦那： 早よ早よ、みて見三脚の望遠はもうセ  
ットされて次々に覗いてるやないか。  
 双眼鏡： そりゃー、あの三脚は扱い易い様に  
設計されてまっさかいな。今朝はアル  
コール入ってへんのにようブレてまっ  
せ。慌てんとしっかり見て下さい。  
 旦那： さすが鳥見用の望遠や、羽根の模様・  
色もくっきりや。それに比べてあんた  
はレベルが――。  
 双眼鏡： レベルがどうかしましたか。あつし  
の場合は只、遠目が利く 30 倍の能力だ  
けです。もはやそれ以上の期待は無理  
と言うもんですわ。  
 旦那： ハイハイ。あんたに恥かゝす気はな  
いんやけど、ベテランが側にいたはる

とつい同じ様に見えるもんと思うしな。

突然、大きな鳥が飛立つ、「アッ雉だ」  
一直線に地面すれすれに、見えない糸  
に 28 の瞳が引張られる。しばし無言。  
150 米先に着地。

旦那： 実に重量感ある飛翔やった。ケリ  
やヒバリのやかましい声も耳に入ら  
なかったな。双眼鏡なんか況して合せ  
る間もないわ。

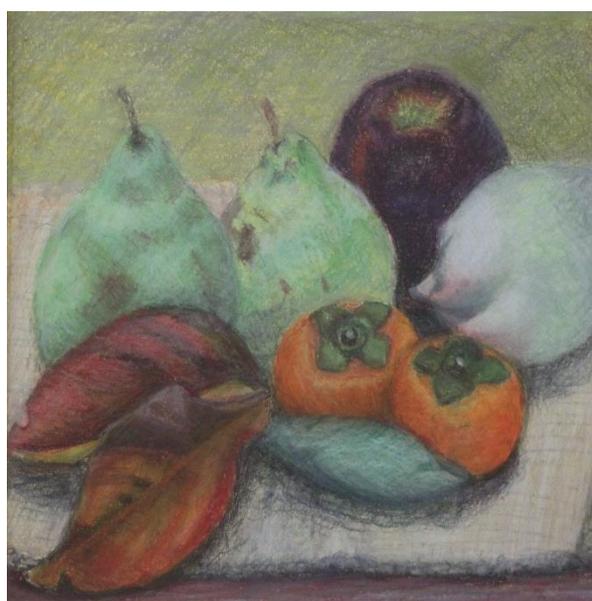
双眼鏡： 今の様な場合、何ぼ機能が良く  
ても照準合せは難しいんと違います。

[香具山探鳥会より] ~ 終 ~





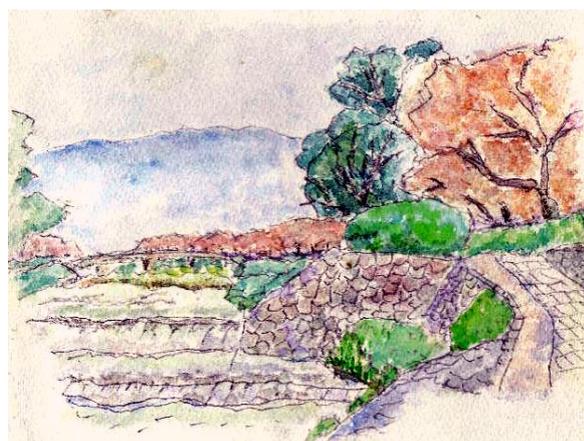
- オイルパステル 8号 (有元康人) 「果物」
- 水彩画 (八木順一) 「桜の賀茂川」
- 水彩画 (辻本愛子) 「ドイツ・デュッセルドルフ、旧市庁舎」
- 陶芸 (小島武雄) 「オブジェ」(赤土、たたら仕上、釉薬：真黒天目)



果物



ドイツ・デュッセルドルフ、旧市庁舎



桜の賀茂川



オブジェ

# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず  
活動予定日

4月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)
5月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林  
[ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統  
8:28発、高の原行き (平日)
  - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統  
8:36発 JR奈良駅西口行き (平日)
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩7分

- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。



\*豚汁は3月で終わりました。

- ◆ 連絡先：木村 裕

## 4月2日

<里山 Gr> JR側登り口の伐木整理  
里山林の倒木・枯損木の処理/イベント材料作成  
(4/19アースデー、5/3~5天平祭)

<工房 Gr> 茄子畑整備、豌豆蔓誘引、  
春作野菜畑の準備/ヒマワリ種確保、ヒマワリ畑  
耕耘(3月までの時)

<景観 Gr> 第3駐車場入口の土盛り準備、窪み  
地の整備/第5地区 簡易物置 施行準備(ぼち  
ぼちと継続) /彩の森竹林整備/池整備  
ハマオモト霜除け撤去、名札立て・柵作り

## 4月9日

<里山 Gr> 里山林のコナラ及び倒木・枯損木  
の処理/イベント材料作成 継続  
第5地区2期地区の整備(人出があれば)

<工房 Gr> 里芋植え付け  
水田整備(取水口・排水口など)

<景観 Gr> [取水・洗い場]の整備(土入れ 囲  
い等) /彩の森竹林整備  
ならやま池生物調査、池整備  
皇帝ダリアの手入れ、名札立て・柵作り

## 4月16日

<里山 Gr> 里山林のコナラ及び倒木・枯損木  
の処理/イベント材料作成 継続  
第5地区2期地区の整備(人出があれば)

<工房 Gr> 水田畦シート敷設  
水田周りの水路整備

<景観 Gr> 第3駐車場 入口土盛り  
彩の森竹林整備/池整備  
日蔭植物の施肥、手入れ

## 4月23日

<里山 Gr> 里山林のコナラ及び倒木・枯損木  
の処理/イベント材料作成 継続

<工房 Gr> 苗代作り  
茄子・唐辛子類・南瓜など植え付け準備  
ヒマワリ畝立て

<景観 Gr> チッパー機借用 第5地区小枝粉碎  
BC・自転車道・果樹園周りの草刈り  
ならやま池生物調査、池整備  
マリーゴールド種まき、山野草園柵作り

## 4月30日

<里山 Gr> 里山林のコナラ及び倒木・枯損木  
の処理/イベント材料作成 継続

<工房 Gr> 茄子唐辛子類・トマト・南瓜等植  
え付け/水稻播種と苗代

<景観 Gr> 彩の森草刈り・植樹手入れ/池整備、  
寒咲き花菜撤去、畑作り変え

※パトロール班4月予定…観察路勉強会、コース  
案内地図作成、第5地区の樹木種類別枯れ調査な  
ど



**集団力の効用**

今年に入り、一斉作業の機会が増えて、伐採木の枝打ち・灌木の整備、池浚え、椎茸の植菌とマンパワーの効果は絶大で威力を発揮しております。

初期の頃は、荒涼たるこの地で笹叢の除伐、林内の間伐、竹林の整備、に集中作業が日常化し、景観整備の実が整った頃を思い出しております。

時を経て、機動力の具備、活動内容の多様化、グループ化の推進、等により立体的な秩序が構築されて来ました。しかし、冷静にみると、多様化によるマンパワー不足の声も少なくありません。セクト的な傾向が、この世界にも頭をもたげてきたのでしょうか。

年間を通じ各現場では猫の手も欲しい時期があり、緊急の事態が生じる事があります。こんな節には大動員の号令が必要不可欠ではないでしょうか。言い古された言葉に「山をみて森をみよ」の格言があります。横断的にモノを見る、指導的立場の方々には大きな視点で対処して頂きたいと、昨今の一斉作業に参加して思いを新たにしました次第です。集団力は凄いですぞ。副次的にはコミュニチィの効用もありますぞ。(川井 秀夫)

**「森は無口です。無口で口下手です」**

富良野在住・脚本家で演出家の倉本聰さんの活動を知ることができた。一部を紹介したい。

木に第2の人生(木生)を与えたい。勿論クラフトに利用する木は、生きた木を切ったりはしないで、100%枯れ木を使っているとのこと。このプロジェクトを立ち上げる時、参加希望者一人ひとりと面談をし、それぞれにどのような思いでプロジェクトに取り組もうとしているのかを確かめた上で、数人に絞り込まれたとか。

ある若いクラフト作家は、「先生から言われているのは、よく『創作』の『作』の部分は、既成品をお金を出してつくるもの。『創』の部分の精神は、いわば知恵を使って表現しようというもの。それが、僕が先生から教わって、今行っている一番大事な部分ですね。」と語っています。

(鈴木 末一)

**旬菜旬食④ ♪♯♪♯♪♯♪**

ならやまエコファーム今月は、野菜の端境期で材料が無いので柚子を使った柚子菓子の作り方を紹介します。

**\*メニュー 柚子菓子**

**◆材料 (20ヶ分)**

- 柚子 20個 (小さい目)・砂糖 300g・白あん 200g・寒天 1本



**★作り方**

柚子はさっと洗い上の部分をすこし切り(あとで蓋に使う)中身を取り出す。取り出した中身を絞り柚酢として使う、種は洗ってザルで乾燥させる。

中身を取り出した柚子を沸騰したお湯で茹でこぼしをしておく。水 500cc に砂糖 200g を溶かしその中に茹でこぼしをした柚子を一晩浸しておく。(蓋用の柚子も一緒に)

一晩浸した柚子を弱火で柔らかくなるまで煮る(形が残ってるくらい)冷めたらクッキングペーパーに広げて半乾きになるまで影干しする。寒天 1本分を水 200cc で煮溶かし・その中に白あん 200g・砂糖 100g・柚の酢大匙 3 を入れよく混ぜるまで煮溶かす。少し冷まして陰干しにした柚子の中にあんこを流し込む(柚子の形を整えるのに盃を使うとよい)あんこが固まったら上に蓋をかぶせて出来上がり。柚子が大きい場合はあんこの量を多くする。

\*洗って乾燥させた種(1週間くらい)は20度の宝焼酎(ワンカップ)に浸けておいて、化粧水又はハンドクリームとして使う  
 柚子をたくさん戴いたとき.....  
 \* 柚子は皮を細く刻んで冷凍しておき料理の棲に使うと便利。中身はザルで漉して柚酢にして、酢の物とか、すし飯に少し混ぜるだけで香りと味が一段と美味しくなる。

池田 富子



## 行事案内 part 1

### 4月・月例研修会 (お花見ハイク)

#### 「幻の大仏鉄道跡を巡る」

明治31年。今から110年前、JR加茂駅～奈良駅間に開業した関西鉄道大仏線。僅か九年で廃線となりましたが、現在、鉄道遺構として、橋台や隧道などが田園風景の中に散在しております。

ハイキングロードとしても人気があり、道中には、歴史遺産・古社寺等があり、季節を彩る花々も見頃を迎えている頃と思います。奮ってご参加ください。

- ① 開催日：平成27年4月8日(水)
- ② 集合：JR木津駅 AM9:00
- ③ コース：JR木津駅～西念寺～鹿背山城跡～鹿背山橋台～観音寺橋台～機関車モニュメント～JR加茂駅 解散 PM3:00頃
- ④ 交通：
  - ・近鉄大和西大寺8:25—京都市行急行
  - 8:33 近鉄新祝園 JR祝園8:47—片町線
  - 快速—8:54 JR木津
  - ・JR奈良8:46—関西本線区間快速
  - 京都市行—8:54 JR木津
- ⑤ 持参品：雨具、お弁当・飲み物ほか
- ⑥ 担当：川井・青木・寺田



### 4月・歴史文化クラブ研修会

#### 「長岡京跡と桜を訪ねる」

4月の歴史文芸研修会は、マイクロバスで「長岡京跡」と京都御室の「仁和寺」を訪ねます。

奈良時代の終りに桓武天皇は淀川水運の利便に恵まれた地・長岡への遷都を決断します。

しかし、長岡京は僅か10年で廃都となってしまう、この後、都は京都に移り奈良時代は終わって、平安時代の幕開きとなって行きます。

遷都に託された意図は何だったか、その展開は・・・、これはまさに奈良時代の歴史終焉のドラマです。

今回は、ガイドさんの案内により、向日市文化資料館で長岡京の勉強をした後、長岡京跡遺跡を巡ります。

仁和寺は最初の門跡寺院であり、「仁和寺門跡」、「御室御所」ともいわれており、山号は大内山と言います。

また、「御室桜」は、木の丈が低く、遅咲きで、根元より単弁の香り高い白花が咲く、「御室桜」(国の名勝)で知られています。

歴史の勉強と、桜の季節の最後を飾る「御室桜」を鑑賞する魅力たっぷりの研修の旅、奮ってご参加ください。



①開催日：平成27年4月14日(火)

②集合：近鉄奈良駅前 8時30分

(帰着予定：16時頃)

③参加費：3,000円

④定員：27名

⑤担当：川井、坂東

⑥申込先：歴史文化クラブ事務局 古川祐司  
メールまたはFaxで申込んで下さい。



# 行事案内 part 2

## 「アースデー2015 in なら」

春のイベントはならコープさんのアースデーから始まります。このイベントは4月半ば過ぎなのですが、例年明日香路の春の陽はなかなか定まらないのです。が、今年はどうでしょう楽しみです。

と き：4月19日(日) 10～15時

ところ：明日香村 石舞台芝生広場

だしもの：・くまさんのペンダント

・ブンブンゴマ 100セット

広い芝生広場には、いろいろなお店が並びます。食べ物屋さんから、体験コーナー、フリーマーケット等々50軒くらい出ます。

ご家族連れで、友達同士で是非お出かけください。またお手伝いして頂ける方は事務局(塩本)まで。

(注)ならコープさんは環境問題を自ら考え、行動する人を広げていくことを目的に1990年以来アースデーを毎年開催し今年で、26回目の実施だそうです。



## 仲間入りしました

昨年9月16日の矢田丘陵植物観察会に飛び入り参加させて戴き大いに楽しみました。とりわけ六甲山周辺とは段違いの野草の多様さに驚きました。その後会のHPを何度か訪ね、平城山の保全に加えて色々な活動をしていること、「多士済々」であること、など、を知りました。自然教室チームに加えて様々な活動に参加して皆様との交流のなかで関西の自然・歴史・文化・食べ物を楽しむ機会を得たいと願っております。

神戸市在住、歴史文化の蓄積が薄い静岡市で昭和19年9月生です。

佐藤庄八



## 5月・月例研修会

### 京都府立植物園の自然観察会(予告)

「京とおうみ」のみなさんのご指導のもと京都府立植物園の自然観察会を楽しみます。春たけなわのすばらしい季節のなか、自然の不思議や魅力をたっぷり味わいましょう。多数の皆さんのご参加をお待ちしています。



1. 日時：5月12日(火) 10時～15時の予定  
雨天の場合は5月13日(水)に延期
2. 場所：京都植物園(京都市左京区下鴨半木町)
3. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具
4. 集合：10時 北山門前に集合(京都市営地下鉄「北山駅」下車3番出口すぐ)
5. 入園料：200円 70歳以上は無料(但し証明するものが必要)
6. 担当：自然教室チーム・川口、倉田、櫻木
7. 詳細は5月号をご覧ください。

????????????????????

## 奈良学クイズ

写真の女性は洋画家です。奈良に関わりの深い文人は、人妻である彼女に恋慕の情絶ちがたく、生涯独身で通しました。



【問1】 文人は誰でしょうか。漢字4文字でお答えください。

【問2】 この女性は誰でしょうか。お答えください。

【締切】 3月29日

【応募方法】 メール or FAX

【景品】 自然木クラフト作品

【3月号答】 ①観音菩薩立像・法隆寺・国宝②九

平成27年・3月度幹事会報告

◆日時：平成27年3月3日(火) 17:00~20:30

◆場所：奈良市生涯学習センター

◆案件：

I 会長挨拶

2/28 しいたけイベント大盛況、協力に感謝します。  
年度末締切りと総会準備に万全を期してください。

II 報告事項

①会員動向：151名(前月より2名減)

②会計報告：主要収支説明。経費精算は3/28 厳守。

③月例研修会、イベント等の活動報告：

GGプロのしいたけイベント報告(150名)

III 検討事項

①ならやま：2月実績報告および3月度活動予定  
・2/12一斉活動日で第5地区の枯れ松整理をした。

3/5 しいたけ菌打ち活動を予定。

一斉活動は会員相互の親睦を深め、一体感を高めるので今後も月1回位で実施していきたい。

②4/19ならコープアースデイへの参加について

既定の参加に含め自然工作の有償化を調整する。

③春の天平祭(5/3~5)への参加について

今年も自然工作(こいのぼり)で出展する。

④奈良県「山の日・川の日」のイベント

GGプロの7、8月イベントを協賛で申請する。

⑤H26年度グループ別予算執行状況について

各グループとも概ね計画通りの取り纏めになる。

⑥H27年度グループ別活動方針と予算案について

予算見込みから、4月からの暫定執行を認める。

⑦H26年度林野庁交付金事業の進捗状況について

今年度交付金の全額執行で取り纏める。

⑧H27年度林野庁交付金制度の策定について

H26年度並みで対処エリアを絞り要望額を出す。

⑨H27年度新入会員歓迎会について

13名を対象に、昨年度の新入会員が実施する。

⑩「佐保川わいわい桜祭り」に参加する。

⑪ネイチャーなら4月号の編集内容を確認した。

IV 確認事項

・3~5月のスケジュール表の日程を確認

・27年総会の会場を中部公民館から奈良市生涯学習センターに変更し、決定した。

以上

◆ 申し合わせ ◆

※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。

◆◆◆ 境 寛様へ感謝のことば ◆◆◆

2010年7月(102号)から、表紙ペン画をご担当いただきました境寛様には、感謝の念で一杯でございます。一作書き上げるのに数10時間もかかるとお聞きしています。本当に長い間、力作をご寄稿いただき有り難うございました。



◆富良野在住・高倉健主演『駅』の脚本家で演出家の倉本聰さんが、「どんぐりってね、芽が出る前に、

根っこから出るんですよね。根っこが育って、地中から養分を吸いはじめると、芽が出るんですよ。」  
「根っこが育って、初めて、芽が出る。しっかり根っこを張った場所(富良野)だからこそ、人々に新しい夢という名の芽を育ててもらえる。」とおっしゃっています

◆ならやま里山林、月例研修会や自然観察会などで訪れた地から教わる英知を、どれだけ養分として吸い取ることができているか、まだまだ教わることは沢山ありそうですね。(里山人)

会報誌【ネイチャーなら】・第159号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：鈴木末一